

# APT PP26-2及びAPT PP26-3の結果概要

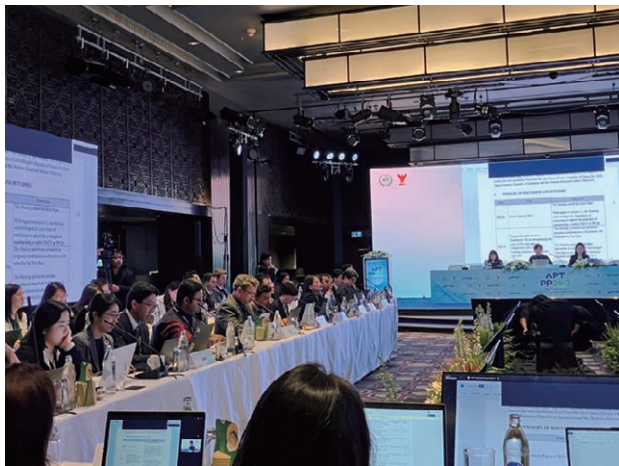


総務省 国際戦略局 国際戦略課 国際機関室 **さとう たえ**  
佐藤 多恵

## 1. はじめに

2026年11月9日から27日にかけてカタール・ドーハで開催が予定されているITU全権委員会議（ITU PP-26）に向け、アジア太平洋地域における共同提案の調整を目的として、APT第2回準備会合（APT PP26-2）が2026年1月28日・29日の2日間、オンライン形式で開催された。我が国からは、総務省国際戦略課国際機関室の長屋室長、浅川補佐、小熊主査及び佐藤主査が参加し、我が国を含むアジア太平洋地域の約23か国から総勢約150名が出席した。

引き続き、APT第3回準備会合（APT PP26-3）が2026年3月30日から4月3日にかけて、タイ・バンコクにおいて対面形式で開催された。我が国からは、総務省国際戦略局の桐山次長、同局国際戦略課国際機関室の長屋室長、堀川交渉官、浅川補佐及び佐藤主査が現地へ赴き参加した。本会合には、我が国を含む約20か国から約100名が現地へ参加した。



■ 図1. 会議の様相

## 2. 各WGの結果概要

### (1) WG1の議論概要

WG1は、ITUの憲章・条約（CS/CV）の改正及び各種決議の改正をはじめ、政策・法的側面に関する事項を審議する作業部会である。

APT PP26-2では、計4件の寄書が審議された。まず、

PP-26においてもCS/CVの安定維持の原則を堅持することの重要性が改めて確認された。また、ベトナムから、決議186（宇宙活動における透明性及び信頼醸成措置に関するITUの役割の強化）、決議218（「Space2030」アジェンダの実施におけるITUの役割）及び決議219（宇宙業務が使用する無線周波数スペクトル及び関連する衛星軌道資源の持続可能性）に対する各改正提案が提出されたが、いずれも引き続き検討が必要と判断され、次回会合への持ち越しとなった。

APT PP26-3では、前回会合からの継続文書を含む計15件の文書が審議された。なお、決議140（WSIS（情報社会世界サミット）の成果等に関する事項）及び決議214（AIに関する事項）については、前回会合においてWG3で審議されていたが、APT PP26-3の前日に開催された運営委員会（Steering Committee）において、本会合以降はWG1が所管することとされた。

宇宙関連の決議186、決議218及び決議219については、前回からのベトナム提案に加え、中国及びインドからも新たな提案が提出され、計7件の文書が審議された。アドホック会合を経てもなお結論には至らず、APT PP26-4への持ち越しとなった。決議140については、インド及び中国からの計2件の文書を審議し、アドホック会合において暫定APT共同提案草案を作成するなど一定の進展が見られたものの、引き続き検討が必要とされ、同様にAPT PP26-4に持ち越された。決議122（WTSA（世界電気通信標準化総会）の役割）についても、中国からの1件の文書を審議し、アドホック会合を経て暫定APT共同提案草案を作成したが、継続審議となった。決議214については、インド・ベトナム・中国からの計3件の文書を審議し、ITUのマンデートを踏まえた決議改正の要否について意見交換が行われたが、オーストラリア及び韓国が決議214改正に強く反対し、継続審議となった。さらに、決議123（先進国と途上国間の標準化格差の解消）及び決議177（適合性及び相互運用性）についても、それぞれ中国・インドから各1件の文書が提出され審議されたが、いずれも引き続き検討が必要と判断され、次回会合への持ち越しとなった。



## (2) WG2の議論概要

WG2は、ITUの組織運営や財務・人事管理など、ITUの管理・運営に関する事項を審議する作業部会である。

APT PP26-2では、インドネシアから決議25 (ITU地域プレゼンスの強化) の改正提案が提出され、他の加盟国からもおおむね歓迎された。しかしながら、ITUの地域プレゼンスに関する調査結果が2026年のITU理事会 (同年4月28日～5月8日開催予定) において報告される予定であることから、その結果を踏まえた上で改めて検討すべきとの意見が示され、合意形成は次回会合への持ち越しとなった。

APT PP26-3では、計2件の寄書が審議された。インドネシアが引き続き提案している決議25については、ITU理事会の審議結果を待つ必要があるとして、その後開催されるAPT PP26-4において審議することが確認された。また、中国からはITUの財務管理における透明性の強化を目的とした新たな決議案が提案された。これに対し、オーストラリア、日本、韓国、ニュージーランド、タイ、マレーシア等から多様な意見が示され、引き続き検討が必要と判断された。今後、中国が関心を有する加盟国とのオフライン協議を行い、APT PP26-4に向けて文書を更に精査していくこととなった。

## (3) WG3の議論概要

WG3は、インターネットに関する公共政策や情報社会の包摂性に関するデジタルリテラシーをはじめ、公共政策に関わる諸課題を審議することを目的とする作業部会である。

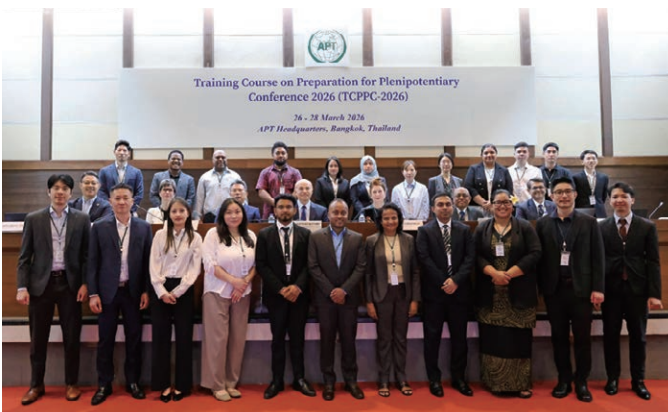
APT PP26-2では、決議140 (WSIS (情報社会世界サミット) の成果等に関する事項) 及び決議182 (ICTと気候変動・環境保護) への修正提案が提出されたが、いずれもインド、韓国、日本、オーストラリアをはじめとする複数

の加盟国から意見が寄せられ、次回会合に向けて合意可能な修正案を取りまとめるよう求められた。また、ベトナムから決議196 (通信サービス利用者保護)、決議203 (ブロードバンド接続) 及び決議214 (AIに関する事項) に関する修正提案が、インドネシアから決議2 (WTPF (世界電気通信・情報通信技術政策フォーラム)) の修正提案がそれぞれ提出されたが、いずれも次回会合への持ち越しとなった。なかでも決議214については、その重要性に鑑み、第3回会合における対面での審議が推奨された。

APT PP26-3では、計21件の寄書が審議された。前回会合から持ち越しとなっていた決議182及び決議196については、それぞれ起草グループが設置された。このうち決議196については、暫定文書 (TMP-07) として取りまとめられ、次回会合において暫定APT共同提案として検討されることとなった。決議179 (子供のオンライン保護) についても、インド・マレーシア・韓国から提案が提出され、暫定文書 (TMP-06) として次回会合での暫定APT共同提案としての検討に付されることとなった。そのほか、決議130 (ICTにおける信頼とセキュリティの強化)、決議101 (IPベースネットワーク) 及び決議203 (ブロードバンドネットワークへの接続) など複数の決議についても審議が行われ、いずれも次回会合への継続審議が決定された。一方、中国からITU事務局による職務規程 (TOR) 改定に関する新たな決議案が提案されたが、コンセンサスには至らず、次回会合への継続審議も行わないこととなった。

## 3. トレーニングプログラム

APT PP26-3の開催に先立ち、2026年3月26日から28日にかけて、APT主催による「ITU全権委員会議対応力向上のための研修コース (TCPPC-2026)」が開催された。



■ 図2. トレーニングプログラム参加者及びAPT事務局提供のタイ文化を楽しむコーヒープレイク

本研修は、国際会議における議論・交渉・調整等の実践的プロセスを体験することを目的とした能力開発プログラムであり、任意拠出金を活用の上、日本とオーストラリアの共催により実施された。

18か国から計22名の研修生（うち日本から2名）が参加し、先進国、途上国及び島しょ途上国の3グループに分かれ、宇宙の持続可能性をテーマとして、実際の寄書をもとに実践的な議論が行われた。途上国からの参加者に対しては旅費及び滞在費が支給され、当該研修生はAPT PP26-3にも引き続き参加した。

## 4. 日本政府主催レセプションの開催

APT PP26-3の会期中である3月31日19時より、会議会



■ 図3. 日本主催レセプション

場内レストランにおいて、日本主催によるレセプションを開催した。次期APT事務局次長への立候補を表明している堀川交渉官をはじめ、近藤APT事務局長、桐山総務省国際戦略局次長及び梶原駐タイ経済公使からそれぞれご挨拶をいただいた。各国代表団から100名近い参加を得て、盛況であった。

## 5. 今後の予定

- APT PP26-4（マレーシア・クアラルンプール）：2026年6月15日～19日
- APT PP26-5（オーストラリア・ブリスベン）：2026年8月24日～28日
- PP-26（カタール・ドーハ）：2026年11月9日～27日
- APT総会（未定）：2026年12月14日～15日

PP-26に提出されるAPT共同提案は、2026年8月開催予定のAPT PP26-5後に、全加盟国への回章を経て確定する。APT事務局は、早期の合意形成が重要であることを強調し、地域間の協調を一層促進する方針を示している。

## 6. おわりに

本報告は、APT PP26-2及びAPT PP26-3における議論の概要と成果を整理したものである。今後の国際的な電気通信政策形成に向けた我が国の貢献と戦略的対応の一助となることを期待する。

## ITUが注目しているホットトピックス

ITUのホームページでは、その時々ホットトピックスを“NEWS AND VIEWS”として掲載しています。まさに開催中の会合における合意事項、ITUが公開しているICT関連ツールキットの紹介等、旬なテーマを知ることができます。ぜひご覧ください。

<https://www.itu.int/en/Pages/default.aspx>